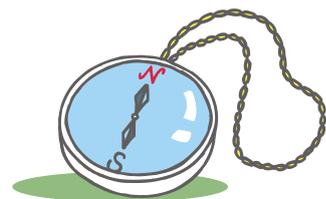


羅 針 盤



第 8 号

令和2年（2020年）6月22日（月）

◆ ソーシャルディスタンスからフィジカルディスタンスへ

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、私たちの日常生活は「新しい生活様式」へと大きく変化し、「3密」や「ソーシャルディスタンス」、「ステイホーム」、「ロックダウン」など、これまでは使うこともなかったような言葉が日常的に使われるようになってきています。「3密」は、密閉・密集・密接から名づけられた言葉で、新型コロナウイルス感染症を避けるために回避がのぞまれているのは、生徒の皆さんも知っている通りです。また、ソーシャルディスタンスと5つのお願いといったものが、商業施設などには貼り出されていて、①マスクの着用、②定期的な換気、③3つの密を避ける、④手洗い・うがい・消毒の徹底、⑤不用不急の外出を避けることが、掲げられています。この「ソーシャルディスタンス」は、感染防止のために、人と人の距離を2m程（最低でも1m）の間隔を空けるということが推奨されていますが、社会的距離の確保という意味が、社会的な分断をイメージしてしまうため、世界保健機構（WHO）では、「フィジカルディスタンス」つまり身体的距離の確保という言い方に改めています。愛する人や家族との関係を社会的に断たなければならないという誤解が生じないように、あくまでも物理的な距離を置くだけで、そして、何よりも「人と人とのつながりは保ってほしい」という願いがあるそうです。今回の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、社会的に孤立するような人たちをつくってしまうようなことは、誰も望んでいるわけではありません。そして、この「フィジカルディスタンス」は、豊中市では「みんなを守るマーク」として小さな子どもたちにも分かりやすく、離れて糸電話遊びをする優しいイラストが「はなれよう、あなたが大切だから」というメッセージとともに使われています。『嫌いだから離れる』というマイナスのメッセージにならないために、距離を取らないと遊ぶことができない糸電話をデザインとして使うことで、小さな子どもたちにも視覚的に理解しやすいよう工夫がされ、「はなれよう」のフレーズをしっかりと伝えたいという目的でつくられているそうです。



◆ コロナ終息への願いとともに

今月の1日（月）午後8時に、全国一斉に花火が打ちあげられたことは、生徒の皆さんの記憶にも新しい出来事ではないでしょうか。残念ながら見るができなかった人もたくさんいることでしょう。（先生自身も見ることはできませんでしたが、・・・）全国各地で、花火業者の有志の皆さんで夜空が彩られたこの花火は、新型コロナウイルス感染症が一日でも早く終息することを願い、そして、医療関係者の皆さんへの感謝の思いを込めて、人が密集しないようサプライズ企画で行われたプロジェクトでした。また、映画監督として有名なスティーブン・スピルバーグは、今年の卒業生に向けて『夢があれば、どんな障がいがあったとしても前進することができる』というメッセージを、贈っています。厄災を乗り越えて、コロナ後の世界を切りひらく若者たちへの「夢の力」となるためにという願いが込められたこのメッセージは、生徒の皆さんにとっても、力添えとなる言葉ではないかと思えます。

（校長 坂井 伸治）